

61. 南海鉄道平野線(廃線)の今昔

大正2年(1913年)阪南電気軌道が、計画し、同年阪堺電気軌道に合併、大正3年(1914年)阪堺電気軌道株式会社が、今池・平野間に平野線を開業、翌年、南海鉄道株式会社と合併、南海電気鉄道平野線となりました。

昭和4年(1929年)には、上町線と平面交差する阿倍野斎場前交差点で、平野線から右折して、乗り換えせずに直接天王寺駅へ、乗り入れられるようになりました。

第2次世界大戦中、昭和19年(1944年)戦時企業統合政策で、関西急行鉄道と合併、近畿日本鉄道平野線となり、戦後、昭和22年(1947年)に再び南海電気鉄道平野線となりました。昭和55年(1980年)平野線の軌道の地下に、市営地下鉄谷町線が開通したことに伴い、同年11月に平野線は(東住吉区内には、田辺、駒川、中野の三つの駅があり大変便利でしたが)営業を廃止しました。現在、東住吉区内には、市営地下鉄の田辺駅と、駒川中野駅があります。また平野線のもと軌道の上には、阪神高速松原線が開通し、環状線方面駒川出入り口があります。



昭和55年(1980年)11月廃線の写真

「ちんちん電車」のこと

昭和30年(1955年)頃までは、平野・中野駅間は、ほとんど家は無く、一面田んぼと畑でしたので、とても見通しがよく、約1.6km向こうの平野駅を出発する電車が、中野駅から、よく見えました。平野線は、通称「ちんちん電車」として親しまれていました。屋根にあるトロリーポールは、電車に電気を取り入れるために、上下左右に動くポールの先にくるくる廻る車の付いたものです。この車の凹部を、ポールに付いたばねで軌道の上に張られた架線に押し付けて、電気を取り入れながら走っていました。しかし、平野線から天王寺駅前方面へ向かう電車は、阿倍野斎場前で交差点を右折しなければならず、架線が交差している為、そのままでは走れません。此処では、右折直前に、車掌は窓から上半身を乗り出し(雨の日も、風の日も)親指を通す穴の開いた革のシートで、ポールの先に結わえられたロープを掴んで手繰り寄せ、ポールの先の車を架線から外します。電

東住吉100物語

車は、一次的に停電しますが、惰力を使って右折を完了し、車掌はポールの先の車を天王寺方面の架線に移します。たまには失敗し、ショートして強い閃光が走り、ドンと音がしてブレーカーが飛び再び停電します。(余談ですが、昔、阿倍野斎場あたりでは、焼き場や墓があったので、夜、人魂が見えるとの噂がありました。) ポールをセットし終わると、車内に張られたロープ引いて、運転手の横にある「かね」を鳴らし作業完了を連絡していました。運転手は、運転室の足元にある直径4~5センチの真ちゅう製の、押しボタンを、足で踏んで「チン」と鳴らし、(発車の)合図や、周囲への注意喚起に使用していました。



「ちんちん電車」の、車掌さん、運転手さん

お年寄りが幼い孫を連れていたり、母親が幼い子どもらを連れて乗ると、車掌や運転手は、乗り降りに自然と手を貸してくれました。また、子どもが降りるのを忘れていたら声をかけてくれました。今のように、際立って福祉の、介護の、ボランティアのとは言わず、自然に弱いものに手を差し伸べることができる、差し伸べてもらえる、安心のよき時代でした。

62. 梅花橋から清水橋へ

今川（No. 6）と西除川（※）の関係について、大阪大学大学院教授・村田路人先生が、土橋家文書を引用され、「今川と西除川は平行して北上しているものの、全く別の川で、今川の墓地の辺りで堤一本を境界として接近しているが、結局は現在の桑津で両者が合流するまでは独立した川であって、大和川付け替え工事以前から、両者が併行して存在した」ことを述べられました。（平成18年（2006年）10月の平野区画整理記念会館でのご講演）

区内の歴史研究家の「山阪神社（No. 83）と中井神社（No. 56）の氏子境界線が西除天道川の川跡ではないか」という話をきっかけに触発されて、調査したところ、梅花橋と清水橋（東側が今川墓地）の間110mが、庚申街道筋の堤を介して接近していたことがわかりました。写真はその接近点を示します。この区間は春には桜が美しく、秋は曼珠紗華（彼岸花）が美しい場所であります。



63. 俳優記念碑

友愛センター 北田辺の前に、明治43年（1910年）建立の石碑があり「俳優記念」と刻まれています。

明治の中頃に文楽の役者が住んでおり、その人の指導で、この地に浄瑠璃が盛んとなり、これに芝居も加えて「山坂連中」と名乗り、近郷切っぺの人気一座だったと伝えられています。

この「山坂連中」のメンバーにより記念として、この石碑が建立されたものです。



64. 大阪市立早川福社会館

・沿革

故早川徳次氏(※1)が、生前に大阪市へ7000万円(建設資金6500万円、整備資金500万円)を寄付された資金をもとに、大阪市が昭和37年(1962年)2月に着工、同9月に竣工開館し、寄付者を顕彰して大阪市立早川福社会館と名付けられました。

会館では開設の趣旨に沿って身体障がい者をはじめ、老人、寡婦、青少年等市民の福祉増進とコミュニケーションを図るために、各種の事業を行っています。

施設の老朽化などにより、従来の点字・録音図書室機能等の充実に加え、障がい者の自立と社会参加を促進する機能を併せ持つよう、平成5年度(1993年度)に建て替えが開始され、平成6年(1994年)5月に今の会館が開館されました。

※1 早川徳次

シャープ株式会社の創業者、国産第1号鉱石ラジオの開発者、早川式繰出鉛筆(シャープペンシル)の発明者としても知られる。氏は苦難の時期に障がい者に励まされたことに恩返しをしたいと多くの社会奉仕を行われたといわれています。

・障がい者のための点字、録音図書館の事業

現在、会館ではボランティアグループによる点字図書の製作(昭和38年(1963年)より)、録音図書の製作(昭和54年(1979年)より)が続けられており、目の不自由な方に無料で貸し出されています。

これらの点字図書は「サピエ図書館(※2)」で活用され、インターネット上で公開され、いつでも読むことができます。

点訳では早川点訳グループとサークルブックエンドが、音訳では音訳グループタ星(ゆうずつ)と早川音訳グループが総勢400人のボランティアで活躍しています。各ボランティアグループは点字図書室への納本、個人からの本等の依頼点訳・音訳の他、対面読書や点字カレンダーを毎年作って配布するなど活躍しています。

(次ページへ続く)



東住吉100物語

※2 「サピエ図書館」(視覚障害者総合情報ネットワーク)

視覚障がい者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供するネットワーク。サピエ図書館は全国の会員施設・団体が製作または所蔵する資料の目録ならびに点字・音声図書出版目録からなり、点字図書や録音図書などの書誌データベースで、資料によっては貸出依頼を出したり、コンテンツをダウンロードしたりすることもできる。

・その他の事業

障がい者の自立と社会参加を支援することを目的に、ボランティアのご協力による点字・録音図書の作成・貸し出しをはじめ、障がい者が相談員となる相談事業や自立生活体験事業のほか、自立に関する情報提供、ボランティアの養成、障がい者や障がい者を支援する団体への貸室事業など幅広く障がい者の方々の福祉の向上をはかる事業を行っています。

・会館施設

事務室、喫茶コーナー、会議室、談話室、点字図書・録音図書貸し出し室、録音図書製作室等

・建物

鉄筋コンクリート造、4階建、地下2階

建築面積 729.38 平方メートル、延べ床面積 3424.91 平方メートル

大阪市東住吉区南田辺 1-9-28

東住吉区役所前の交差点の北側を西へ 100m の東住吉区役所前バス停の前(東住吉消防署の向かい)



65. 中野村の環濠

江戸中期の平野七名家の一つ・土橋家に残された文書によれば、現在の今川は狭山西除今川(略して今川)と呼ばれ、旧西除川は狭山西除天道川(略して天道川)と呼ばれていたことがわかります。

また、旧中野村は今川と天道川の間挟まれており、天道川から取り込んだ水路によって、環濠聚落となっていました。また、その図から現在の道路が環濠の跡であることも読みとれます。

環濠がωのような形になっている中央部北側のへこみが、現在の針中野の北側道路であり、東側は中井神社(No. 56)東側と林覚寺東側の石垣と判明します。また西側は現在の「針中野わくわく公園の用地が天道川の川跡であることも推察できます。

南側は中野鍼灸院(No. 58 中野のはり)の辺りと思われるので、環濠に収まる旧中野村は大変小さい聚落であったことがわかります。

なお、「わくわく公園」前道の東側が中井神社の氏子領域で、西側が山阪神社の領域ですので、天道川が神社の氏子を分けていたことになり、針中野周辺の天道川の河川跡が神社氏子の境界線を辿ることによって確定することができます。

66. 「はりのみち」の道標

大正3年(1914年)に南海平野線(No. 61)が開通した時に、中野駅から中野鍼灸院(No. 58 中野のはり 参照)まで320mの間に7基の道標「はりみち」が辻の角々に建てられ、その後平野線は廃線となったが、2カ所の道標は残っています。現在、天王寺の庚申堂から、苗代田-桃ヶ池-北田辺-中野-住道矢田-瓜破に至る道路を庚申街道と呼び、「はりのみち」の道標はこの街道に沿って、中野の地域に建てられています。



67. 阪神高速道路14号松原線一環状線方面駒川出入り口

市営地下鉄谷町線の駒川中野駅に接近して、阪神高速大阪松原線の環状線方面駒川出入り口があります。この出入り口は、長居公園で大きなイベントがあるときなどの、道路交通の拠点で、平成19年(2007年)世界陸上大阪大会開会式にご臨席の天皇・皇后両陛下も、駒川出入り口を利用されました。



68. 阪和貨物線と「おおさか東線」

阪和貨物線は、加美(大和路線)と杉本町(阪和線)を結ぶ貨物専用線で、東海道線の吹田操車場と加美(久宝寺)とを結ぶ城東貨物線とともに、東海道・山陽という幹線と南大阪や和歌山方面を結ぶ貨物輸送に使われていました。

阪和線と関西本線が接続する天王寺駅には、阪和線と関西本線の線路に段差があり、天王寺駅でV型に切り返すか、外環状線を西九条方面に迂回する方法を採らなければ容易に阪和線から関西線や環状線に乗り入れすることができない状態でしたが、この線を利用して特急や修学旅行列車を通過させる奇抜なダイヤを組んで、当時としては、結構、話題になった線路です。

しかし、鉄道による貨物輸送の縮小にともない、平成16年(2004年)7月より閉鎖されています。

城東貨物線は、新大阪―大阪―天王寺の線路も飽和状態であるので、JR西日本としては、新大阪(吹田)―放出一加美(久宝寺)間を高架化し、「おおさか東線」として旅客列車を走らせる計画があり、すでに平成20年(2008年)3月15日から、放出一久宝寺が開通しています。

全線が開通すると、大阪市内から放射状に走っている主要鉄道の全ての駅と結ばれることとなります。一方、阪和貨物線(加美―杉本町)は、路線の事業免許が廃止されたので、この線路に列車が復活する可能性がなくなっています。



69. 東住吉区内の主な交通機関と道路

1. 東住吉区内の駅

- ・ JR-大和路線（東部市場前駅）
JR 大阪環状線・JR 難波・天王寺～王寺～奈良・加茂方面
- ・ JR-阪和線（南田辺駅・鶴が丘駅）
天王寺～和歌山方面
- ・ 近畿日本鉄道—南大阪線（北田辺駅・今川駅・針中野駅・矢田駅）
大阪阿部野橋～河内長野・橿原神宮・吉野方面
- ・ 大阪市営地下鉄—谷町線（田辺駅・駒川中野駅）
大日・東梅田～八尾南方面

2. 主な道路

- ・ 阪神高速 14 号線—松原線（環状方面駒川出入り口 No. 67）

【東西の道路】

- ・ 国道 25 号線（通称—奈良街道）（杭全交差点を通り東住吉区北部を、ほぼ東西やや南に走る）梅田新道～天王寺～杭全交差点～八尾～柏原～奈良～四日市市方面へ。
- ・ 松虫通（南港通りの北側を平行に東西に走る。）平野区西脇（国道 25 号線と大阪内環状線・国道 479 号線の交差点）～今川 2 丁目～昭和町～松虫～聖天坂方面へ。
- ・ 南港通り（通称）・府道 5 号大阪八尾線、（東住吉区の中央部を東西に走る。）平野～地下鉄駒川中野駅・阪神高速 14 号松原線環状方面駒川出入り口 (No. 67) ～東住吉区役所前～西田辺～玉出～南港方面へ。

※余談

かつて昭和 20 年（1945 年）ごろ、駒川商店街以西を十三間道路（約 24m）と呼んでいました。当時としてはかなり幅の広い道路でした。

- ・ 長居公園通り（通称）・国道 479 号線（長居公園の南側を東西に走る。）平野区长吉～喜連瓜破～湯里 6 丁目～長居公園東～長居公園～住吉区千躰（阿倍野筋）方面へ（次ページへ続く）

東住吉 100 物語

※余談

大阪国際女子マラソンなどでは、長居陸上競技場を出て、まず長居公園通りを東に進み湯里 6 丁目を左折、今里筋に入る。

【南北の道路】

- ・ 今里筋 （東住吉区の東部を南北に走り蒲生 4 丁目交差点で国道 1 号線に入る） 湯里 6 丁目で長居公園通り・中野町交差点で通称南港通り・今川 2 丁目交差点で松虫通り・杭全交差点で 25 号線等と交差）
- ・ 長居公園東筋 （東住吉区の中央部を北田辺 6 丁目松虫通りとの交差点から南に走る。） 北田辺 6～東住吉区役所前（南港通り）～（東住吉警察）～長居公園東（長居公園通り）～行基大橋（大和川）を経て堺市大泉公園～大阪中央環状線方面へ。